

選択的夫婦別姓は危険。 断固反対すべきです。

「夫婦が姓を別々に名乗れるだけ」だと思いませんか？
民主党の他の法案と組み合わせると大きな脅威になることを認識しましょう。

民主党の千葉景子法相が推し進める『選択的夫婦別姓』は世間では正しく報じられていません。ただ「夫婦が姓を別々に名乗れるだけ。問題ないのでは？」という声がありますが違います。

マスコミが報じない『選択的夫婦別姓』の詳細をお知らせします。

別姓の危険性

まず単純に別姓が名乗れるということには問題があります。それは婚姻届を出した夫婦なのか、内縁なのか、重婚関係なのか把握できなくなるということです。特に重婚は重婚罪となります。

夫婦別姓になった場合、これらの把握が非常に困難になります。姓というのは私たちが思う以上に大きな意味を持っています。それを国民との十分な議論もなく容認していいものではないのです。

また、子どものいる家庭はより深刻な問題があります。夫婦別姓になった場合、子どもにはどちらの姓を与えるかです。

夫婦は別姓でも子どもは必ずどちらかの姓を持たなければなりません。親は自分の姓を継いでもらいたいと思うのが心情でしょう。しかし、夫婦別姓となれば、このことで夫婦同士・祖父母同士で揉めなければなりません。同一姓であるからこそ起きなかった問題がいきなり出てくるのです。

「家族の絆が弱まる」のは明らかなのです。

外国人参政権との連携

選択的夫婦別姓は「家族の絆を弱める」だけではありません。その裏に潜むのは民主党が国民に周知せずに提出しようとしている『外国人参政権付与法案』です。

『外国人参政権付与法案』は永住の外国人に参政権を与えるという法案ですが、憲法違反などの多くの問題を抱えています。民主党は国民からの反対を避けるためにマニフェストから削除していました。この『外国人参政権付与法案』は正確には韓国・中国への配慮のための法案です。民主党が異常なほど親中・親韓なのはご存知でしょう。これは民主党は民団などの協力を得て、政権を奪取したためです。

中国では夫婦別姓が通常です。なので、『外国人参政権付与法案』が通ると中国人は文化的違和感を感じずに移民できます。中国は国を挙げて移民政策を行っています。外国人にも参政権が与えられるとなればすぐに大量の中国人の移民がやっできます。

ここまで読んでいただければ分かると思いますが、『外国人参政権付与法案』は日本にとってデメリットが多いのです。そもそも日本では『通称使用』というものがあり、手続きさえすれば旧姓を使用することは可能なのです。

本当に『選択的夫婦別姓』が必要か考えてみてください。

コラム：フランスで賞賛される日本の戸籍制度

フランスでは「家族手帳」という身分証明制度があります。この制度はフランスだけでなく、ドイツなどの多くのEU諸国が採用しています。しかし、フランスにはその人の家族を把握できる一種の「家族簿」となるものが存在しません。

フランスでは、家族単位編成の日本の戸籍制度が非常に高く評価されています。日本の戸籍制度はよく考えられて作られているのです。

『選択的夫婦別姓』は戸籍制度にも影響を与えます。世界に誇れる制度を安易に変えてはならないのです。